

週刊センターニュース No.81

第81号(2005年10月17日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm



第91回共同学習会のお知らせ

日時 10月20日(木) 16:20~17:50

場所 総合教育棟5階D14講義室(北棟)(いつもの会場と異なりますのでご注意ください。)

双方向遠隔授業システムを用いて、鶴間キャンパス保健学科5号館5104教室、

および福井大学松岡地区中教室にも送信されます。

発表者 佐原郁代(大学院経済学研究科院生)

タイトル 聴覚に障害のある学生への教育支援

概要 10月8日に筑波技術大学で開催された「第1回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」の参加報告である。「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)」の紹介と、講演会報告(テーマ「ロチェスター工科大学における聴覚障害学生支援」)、さらには、利用者としての聴覚障害学生自身によるわが国の取り組みの評価などをもとに、今後の学生支援についての提言を紹介する。

佐原さんには、当センターの学生支援プロジェクト(近日発足予定)のメンバーとして参加していただきました。

第88回共同学習会参加御礼

9月22日(木)に開催しました共同学習会「アカデミック・ハラスメント防止のために」は学内2キャンパス、北陸先端科学技術大学院大学および富山大学の計4会場で100名近くの教職員・院生の方々にご参加いただきました。有難うございました。なお、学生相談・学生支援に関心をお持ちでありながら当日授業等で参加できなかった方々には、当センター撮影のビデオをご利用いただければと思います。教育支援システム研究部門の青野(内線5774)または堀井(同5858)までご連絡ください。

主張「名札の着用について - 学生たちが安心して学習できる環境を作るために」

10月4日付けの総務部長名の文書「不審者の出没について」は全部局に送信されたので、みなさんご記憶のことと思う。＜本学教員を名乗って女子学生に声をかける、不審な人物が目撃されている＞というのである。安心して学べる環境を学生に提供しなければならないことは、教育機関の最低限の使命であることは誰も否定しないことであろう。問題は例えば、上記のような事態が発生した場合には具体的にどのように対応すべきなのかということになる。それぞれお考えいただきたいが、私はこれを機会に職員用の名札を着用することとした。以下、その理由(すでに着用されておられる方は何を大げさな、と思われるだろうが)を記しておきたい。

当センターでは私以外の3名の教員は、職員用名札を着けていることが多い。なぜ、私だけが着け

てこなかったのか。言い訳はある。＜私が本学教員であることは、学生は誰でも知っているから＞というものである。昨年度まで4年間私は、共通教育機構教務・学生委員長として、入学前の「優先受講票説明会」でビデオによる説明の担当者であり、新入生のほとんどはそれを見ていること、前期には角間ランチョンセミナーを毎日行い、出張等での不在時を除き、毎朝そして昼食時間帯には、総合教育棟入り口で広報・呼び込みに立っていること、共通教育だけでも毎年10こま前後担当してきたこと（今年度は、管理職としての会議参加も増えたので減らし、当センターHPの「スタッフ教育担当表」を見れば明らかなように、共通教育で7こま専門教育で2こまを担当）を理由にしてきた。したがって、「なんでも相談室」での学生の親御さんとの面談や、学外での当センター主催のセミナーの司会担当等では名札を着けてきた。だが、普段着用しない理由は、実際は、着けるのが面倒だったからである。

しかし、冒頭のようなことが発生している以上、学生が安心して学習できる環境作りのためには、面倒だ、ということで自分を甘えさせてはいられないと、今や考えるに至ったのである。

ここで、本学固有の環境も考えねばならない。

私は最近、学会や訪問調査で他大学を訪れる機会が増えている。警備員さんがいる大学も多い。ネクタイを着け堂々としていけばとがめられることはないが、アポイントメントをとっているので、多くは門のところにある受付で、建物の場所を確認し名前を名乗ることになる。門＝入り口があれば、学外者のチェック機能は万全とはいえないが存在する。

だが、金沢大学には塀もない、門もない、受付もない。キャンパスには24時間出入り自由である。以前は建物内すら全くの自由で、総合教育棟では夜間に（学外者かどうか不明だが）講義棟で酒盛りをするグループさえ現われ、それもきっかけとなって、現在、夜間と土日はカードキーによる管理となった。建物内は別にしても、この広いキャンパスをどう管理するのか。なにか事がある度に掲示が増えるという対応では問題の抜本的解決にならない。実際に被害者が出ている。本学にとって解決を迫られている当面の課題の一つであることは間違いないだろう。

キャンパスの各所に監視カメラをとという提案も出るかもしれない（提案者は、理念の問題に加え、費用の問題と、誰がその映像を24時間見ているのか、誰がその場につけつけるのか、という問題をクリアしなければならない）。だが私には、即効性・実効性のある対策はあまり考えられない。そこで、今の時点では私個人ができることとして、本学職員（教員も広義の職員である）であることを名札で示そうと考えたのである。すでに自然科学研究科の教員は行っていることなので、私にも出来ないことではないはずだから・・・。

ちなみに、この問題については、10月14日開催の教育企画会議でも発言させていただいた。

できれば、現在、名札を着けておられない教員の方々からのご意見をいただければと思う。

（教育支援システム研究部門 青野 透）

センター教員活動記録

2005.09.18 公開講演会「アカデミック・ハラスメントと法律」(主催：NPO アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク)参加(堀井 公費出張)

2005.09.28 九州大学高等教育総合開発研究センターにて九州大学の学府・研究院制度について聞き取り調査(西山 公費出張)

2005.10.2 第1回リメディアル教育学会に参加 会場：清泉女子大学(東京)(西山 公費出張)

2005.10.3 「大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究」(科研)打合せ参加 大阪大学(堀井 科研費出張)